中暑のなやみ病にて四の巻をもうしなひ
中ごろハ煩着百法師まいりて中く中
ゝをもつて命をたんじ申なく系せてこと
のゝ行こと三度の所なりし年こと法師
なるゝ中ゝ系が御十三のゝ子なれど
ゝの保ちたいとて東西をも辨一百
よのをもつ上こと安器原なる数年の年サニ
五月をあ沢殿こと六十こと年こと

ケ様の御門をうんせのゝ
なりてかゝること法こと一五月の内に
百服を注法こと百余し数年御きゝ
服こと骨髄こと興りこと病気こと
出仕もせずこと其年の秋より三里ゝ
面こと高橋こと我殿使こと引籠り数
歩もあること能ハずよのなまこと
ゝ人こと中こハ名医法人こと時代こと安